

国際民間航空機関(ICAO)の指針に沿った予防対策を実施

～本邦初、新型コロナウイルス感染症予防対策への取り組みをさらに強化します～

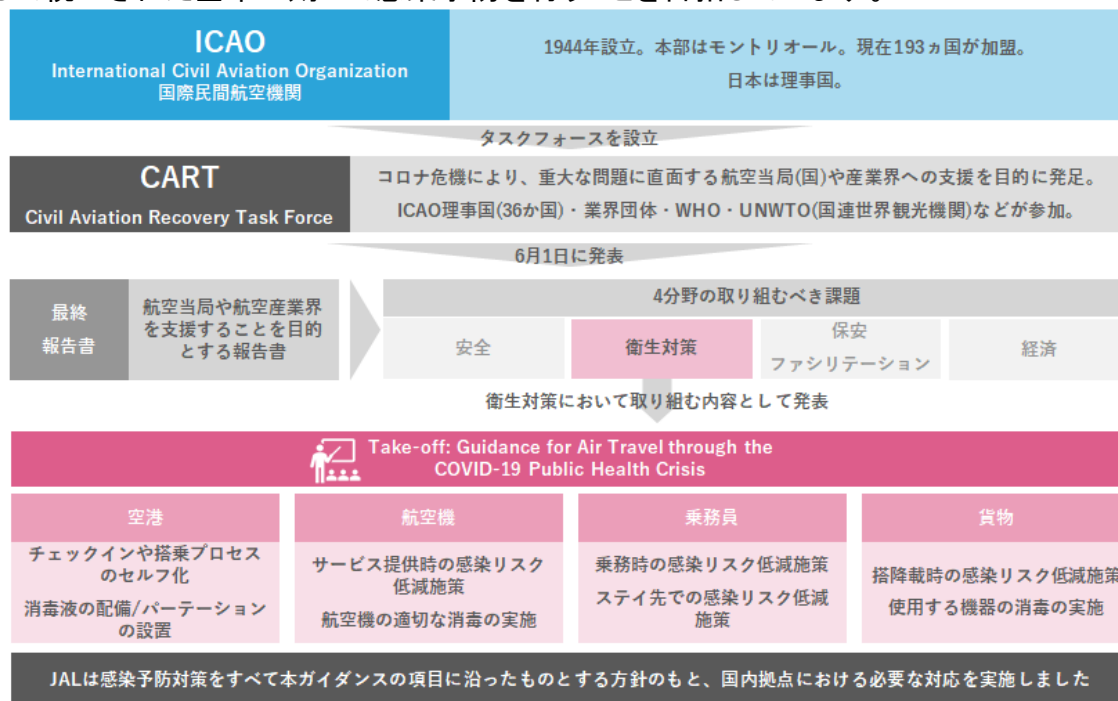
2020年9月8日

第20043号

- 国際民間航空機関(ICAO)は、6月に新型コロナウイルス感染予防のガイダンスを発表
- 本ガイダンスでは、航空機をご利用されるお客さま、および従業員双方の感染リスクを下げることを目的とし、「空港」・「航空機」・「乗務員」・「貨物」の4分野における推奨項目を策定
- 本ガイダンスを国際基準として位置づけ、本邦で初めて、新型コロナウイルス感染防止対策をすべて本ガイダンスに沿ったものとしします。(※国内拠点において9月より。以降、国際拠点などに順次拡大)

JALグループは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と、すべてのお客さまが安心して航空機をご利用いただけるよう、お客さまならびに社員の安全・安心を第一に考え、衛生対策をはじめとした取り組みを強化しています。感染防止対策のさらなる強化を目指し、国際民間航空機関(ICAO)が推奨するガイダンスに沿った対策を実施していきます。

ICAOは新型コロナウイルス感染症予防の指針として、「Take-off: Guidance for Air Travel through the COVID-19 Public Health Crisis」(*1)を2020年6月1日に発表しました。本ガイダンスは、各国や地域機関との協議に加え、世界保健機関(WHO)などの国際機関からの助言のもとに策定されました。航空機をご利用されるお客さまと業務にあたる従業員双方の感染リスクを下げることを目的としており、「空港」「航空機」「乗務員」「貨物」の4分野での推奨項目が制定され、航空に携わる各事業者が一貫して統一された基準に則って感染予防を行うことを目指しています。



(*1) ガイダンスの詳細については、<https://www.icao.int/covid/cart/Pages/CART-Take-off.aspx> 参照。

JALは本ガイダンスを国際基準として位置づけ、当社の感染予防対策を全て本ガイダンスの項目に沿ったものとする方針のもと、本邦で初めて、現行の感染対策の状況を確認するとともに必要な対応を実施しました。今般9月より、国内拠点における感染予防対策については、ICAOのガイダンスに沿ったものとなります。今後も海外拠点などに順次取り組みを拡大していきます。

6月以降、JALアプリを活用した空港内の消毒液配置場所の検索や消毒液の自動噴霧器の設置、また、航空機の消毒実施場所の拡大や消毒回数の高頻度化など、新たな取り組みを順次開始しております(*2)。

今後も、空港・機内などのより効果的な抗菌・消毒方法や、非接触でのお手続きの拡充など、安全・安心な空の旅をお届けするための取り組みを継続して強化してまいります。



JALアプリの空港内の
消毒液設置場所表示(イメージ)



自動チェックイン機の非接触化
(※9月15日までのトライアル)



非接触・非対面 アバター式
リモート案内サービス
(※9月25日までのトライアル)



(*2) 最新の対応状況については JAL Web サイト <https://www.jal.co.jp/jp/ja/info/2020/other/flysafe/index.html>(日)/
<https://www.jal.co.jp/jp/en/info/2020/other/flysafe/index.html> (英) 参照。

以上